



Via Latina 22

2020年5月 290号

総本部よりのお知らせーマリア会

“社会的距離を保つ” 今の時期における社会的、靈的“親密さ”

これまでの数ヶ月を通して、私たち世界中の多くの人々は“社会的距離を保つ”という新しい言葉を知るようになりました。この言葉は、必要ではあるが、日常的に会っている人たちから物理的に切り離されるという残念なことにぎこちない要請のことを指しています。そしてこれは、世界中至る所で私たちに脅威を与えている新型コロナウイルス感染を阻止するためなのです。それでも、多くの人たちは**物理的に距離を保つ**ことは必要だとしても、異なる方法であっても継続した**社会的交わり**もまた必要であると実感しています。私たちは、お互いに“親密”であり、“連帯”しているのには多くの方法があることを学んでいます（あるいは、気づかされています）。オンライン学習、バーチャル会議、家族の出会い、そして相互支援などのためのクリエイティブな解決策はこの例になります。この戦いの“最前線”で奉仕している医療従事者や他の奉仕者たちの疲れを知らない無償の献身はもう一つの例です。非常に多くの模範があります。

総本部にいる私たちは、マリア会共同体とそれと協働する人たちがこの危機的状況の中で司牧的、社会的に協力的な形で応えてくれた方法に感動し、誇りを感じています。私たちの多くの学校は、先生方と学校管理者の側で相当な努力と独創性を要求されるお膳立てをして、“バーチャル教室”で授業をしています。同様な他の司牧的なイニシアティブもあります。私たちはこれらの幾つかを皆さんと分かち合うのは良いことだと思いました。それは**決して網羅的なリストではなく**、ただ単なる見本です。私たちはリストに載せることができるもっと多くのものがある事を知っていますし、聞いている以上のものがあると確信しています！とにかく私たちは次の情報をお伝えします。（適用できるところでは、更なる情報のためにリンクが提供されます）

コロンビア：ボゴタ、メデリン、そしてジラドの町々から、12歳以下の少年少女80名以上のからなる“シャミナード聖歌隊”がバーチャルに一緒になって“Soy”を歌い、彼らの祖国に命と平和への希望を捧げました。この取組みはマリア会とコロンビア・シャミナード基金の支援を得てRodrigo Betancur師によって計画されました。



アルゼンチン：Soldati町は貧困と暴力そして絶望によって既に崩壊した地域でした。この地域に、マリア会は1つの小教区、マリア聖地、1つの大きな学校、“ファチマの聖母学院”を有しています。この学校は教皇フランシスコが教皇に選出される直前に私たちマリア会に委ねられました。

コロナウイルスの発生は、すでに深刻なものとして知られているデング熱感染症と同時に起こりました。数名のマリアニスト修道者はデング熱に感染しましたが、その中にはアルゼンチンにいるFMIシスター3名の中の2名が含まれています。一方で、大部分がわずかの日当のために働いているこのゾーンの住民は、仕事がないので飢えに苦しんでいます。自分たち自身の抱える困難さにもかかわらず、信徒マリアニストと私たち学校の協働者たちはSoldati町の飢えた人々に無償の食料提供を継続してきています。

ローマ：Via Latinaの2つの共同体は、コロナウイルスによって大災害を蒙ったイタリアで義務化された規律に適合出来るよう、一緒に1つの共同体を形成することになりました。

信徒の協働者や日曜日にいつもミサに与っている人たちから引き離されてはいますが、共同体は、聖堂の座席に一人ひとりの写真を置いて、祈りの冒頭でこれらの人々が共にいることを思い起こすようにしました。





そして、イタリア全土で良く知られた現象となったように、マリアニストも復活祭の夕方6時に集まり、隣人に向けて喜びと希望の歌を歌いました。

スペイン：スペイン管区が主催し、よく知られて感動的な毎年の行事は、[若者たちとの復活祭前の聖なる3日間と主のご復活](#)の祝典として続いてきました。“社会的距離を保つこと”がこの重要で独創的な司牧活動を中断させることなく、彼らは今年それをバーチャルで行うと決めただけではなく、この機会をラテンアメリカの人たちにも拡大することが出来ました。

この祝典には黙想、祈り、典礼等の機会があり、個人的な霊的指導のために誰かと繋がる可能性や、毎日の経験を分かち合うバーチャルグループの話し合いの可能性さえもありました。60名以上の若者とスペインマリアニスト家族のメンバーが出席しました。



更に、ラテンアメリカからの100名の若者グループが、時差があるため彼らのためだけの特別な活動で、ペルー、コロンビアとエクアドルの修道者とマリアニスト家族メンバーに伴われて参加しました。

メリバ：ニューヨーク地域は世界で最も感染を蒙った場所の1つです。メリバ管区の学校の修道者、学生、信徒の協力者が、ソーシャルメディアで毎日思いと意見等を交換しています。こうする中で、彼らは自分たち自身の信仰の歩みを分かち合うことによって、私たちの共通の信仰に対してお互いのために証しをしています。



学校のスポーツチームや他の学校クラブに所属する何人かの生徒体たちのグループ、そして卒業生のグループは、医療従事者や奉仕の仕事に最初に応答した人々に協力し合いながら食料や必要物資を提供しました。食料はしばしば卒業生が経営するレストランから調達し、病院、救急車そして警察署に配送されました。

インド：インド全土で、マリア会が存在するところはどこでも、修道者の共同体、および彼らの生徒たちさえも、この時期に特に助けを必要としている多くの貧しい人々を支援するために努力をしています。賃金を失い、交通が止まり、勿論、感染そのものが、これらの傷つきやすく弱い人々に大きな犠牲を強いています。バンガロール、ラーンチ、パトナ等で、マリアニストは食料やその他必要な物資を配っています。



典 礼：

多くのマリアニスト共同体とその事業体はインターネットで典礼を配信しています。この2、3ヶ月の間ミサ聖祭を執り行うという恩恵は、多くの人々が少なくとも物理的方法では分かち合うことが出来なかった恵みだ、と私たちの共同体は十分に意識しています。私たちは、意図においてだけでなくネットを通してバーチャルにおいても、信者たちを私たちの祈りに招き入れます。



以下のホームページに、幾つかの提供された事例についての見本リストがあります。

[アメリカ合衆国](#)、[スペイン](#)、[ペルー](#)、[チリ](#)、[メリバ](#)

この数ヶ月私たちが直面している困難さは否定出来ませんが、希望と善意があることも同様に否定できない事実です。使徒職に召された修道者として、その召命に生きる私たちには中断はありません。これらのこと、そして述べられていない他のことは、召命への忠実さに対して証しをし、非常に大きな希望を与えます。今年、非常にリアルな四旬節を過ごした私たちは、また復活から来る真の新たにされた命の希望と祝福を体験する幸運にも浴しています。感染拡大の終息とその犠牲者のためだけでなく、また、“社会的距離”は社会的、霊的な親密さなしにはあり得ないことを、小規模にあるいは大々的に確認する全ての人々の上に神の祝福を願うためにも、常に祈りを続けましょう。

シャミナード国際神学校への教会法上の訪問

Covid-19感染拡大がもたらした例外的状況は、私たちの神学校への年毎の訪問にいくらかの変更をもたらしました。当初、インド従属地区の地区長Sudhir Kujur師と霊生局長Pablo Rambaud師がこの訪問を行う予定でした。Sudhir師の旅行が取り消されたので、総長評議員会はこの訪問にMaximin Magnan士がPablo師に同行することに決定しました。それに加えて、ローマの大学が開かれておらず神学生たちは毎日家に留まっているので、訪問日程も調整されました。このような現状のために、神学校内でもっと拡大した会議を行うのが適切でした。この訪問は2020年3月23日から27日にかけて行われました。



訪問は訪問者と養成者チームとの会議で始まりました。訪問者は養成者チームから全般にわたる報告を受け、また全神学生とのインタビューも行いました。パンデミックによってもたらされた状況のために、Via Latinaの2つの共同体、すなわち総本部と神学校は、既に典礼と食事を一緒に行っていました。

この訪問が終わると、総長評議員会はマリア会拡大総長評議員会のメンバーにこの訪問の情報とそれに対するコメントを求めるために報告書を送付しました。そして3月31日に、神学校共同体との会議が持たれ、この訪問の最も重要な側面を彼らに提示しました。

神学校での養成課程はマリア会にとって大変重要です。そのため、生活の全ての側面が考慮されなければなりません：祈り、養成、共同生活、司牧活動などです。養成者チームと神学生自身はこれらの関係分野を十分理解しており、これら生活の全ての側面に周到な注意を払っています。

“Pachi” と呼ばれているFrancisco Canseco師について特別な言及がありました。なぜなら、彼は神学校校長として最後の一年間を務めているからです。Max士とPablo師は神学校共同体から受けた歓迎、および彼らの訪問期間中のオープンな姿勢と的確な意思疎通に感謝しています。

マリアと一致してこの5月をいきる



“これはマリアの月です、それは最も美しい月です”と古い讃美歌に歌われていました。とはいえ、私たちの心は世界の数々の悲嘆のために圧倒されたままになっています：貧困者、ホームレスの人々、難民、失業者、感染拡大の犠牲者、病人、もうこれ以上狭い場所に閉じ込められるのに耐えられない人たち、お金が無くて食べるものが何もない人たち、・・・

しかしながら、聖母の優しさは彼女の子供たちを見放しません。十字架の下におられたマリア、また今私たちの世界の十字架の傍におられるマリアは、また支援をしている人たち、癒やしをしている人たち、治療法を探している人たち、人のために自分を犠牲にしている人たちの悲嘆の中にもおられます。

彼女に信頼するよう招いている私たちの創立者に耳を傾けましょう。

“マリアは、人類の擁護者として十字架の下におられました。”

G-J シャミナード、1823年の黙想会、16番目の念祷

《絶えず聖母マリアの助けを嘆願しましょう；この命の危険の中で自分を支えるためにマリアの助けを必要としているその子供たちの声を、マリアは軽んじられません。それほどマリアは素晴らしい母親です》

1809年1月26日、メール・アデルがアガト・ディシエ嬢に宛てた書簡

更にまた、私たちは5月12日に、1865年にマリア会が、そして1869年にマリアの娘たちの会が聖座によって承認された事を、全ての恵みの母であり、執り成し手であるマリアと共に感謝を捧げましょう。これはまた、私たちにその世話が任されており、その聖地がこの名前を頂いているコートジボワールの兄弟たちに思いを馳せる機会でもあります。

5月25日、キリスト者の助けである聖母マリアの祝日に、私たちは、アデル・ド・バッツ・ド・トランケレオンと彼女の仲間たち、そして私たちのマリアニストシスターと共に、1816年の彼女たちの愛する修道会の誕生を喜び合いましょう。

最近の総本部通信

- 訃報：6－10号
- 4月23日：文書「感染拡大の時に当たっての考察」 (Reflection in Times of a Pandemic) 総長アンドレ・ヨゼフ・フェティス師から3か国語で全ての行政単位責任者宛て送付

メールアドレスの変更

Robert Metzger士 (US): rmetzger@sm-usa.org

Isao Jean-Baptiste Aoki師 (JA): aokism2020@gmail.com

Neville O'Donohue師(US): nevilleodonohue@gmail.com